

広報

No. 123



昭和58年 9月15日

発行・編集 国見町企画課

おもな内容

敬老の日・老人福祉週間……………	2～3
（9月15日～21日）	
町政モニターサロン……………	4
あの人この人（佐久間美由紀さん）……………	5
おしらせ……………	6～7
公民館だより……………	8～9
わだい……………	10



'83

9月

“みんな元気に”

— 藤田小学校で —



9月15日～21日

敬老の日・老人福祉週間



(貝田字立久根四)

正樹君 (大木戸小6年)



高橋ナヲさん (69)



由香さん (森江野小6年)



(森山字上野町二二)

武田フミさん (78)

私のばあちゃん

「おはようございます」朝おきてすぐ戸をあけて、ばあちゃん、部屋をのぞくと、ばあちゃん、もうカーテンを開けて本を読んでいます。

鼻の上に、チョンとのとせてあるようながねの間から、私や弟を見て「おはよう、早い早い」と言ってくれます。ねばうして、おそくなった時でも「早い早い」といわれるので、ばあちゃんに対してはすかし気持が、反対に、すくわれたような気がして、とてもうれしくなります。

ぼくのばあちゃん

ぼくのばあちゃんは、しゅ味をたくさん持っています。ししゅうなどを、文化祭に出品して、りっぱな賞状などもいただきました。ペーパーフラワーで、バラやばたん、ききょうの花も作ったりします。

また、ふろしきで、かわいい人形も作ります。それに、たまごのからをつぶして、それを画用紙にはり、その上に「寿」という字を書いたり、絵を書いたりします。そのほかにも、たくさんしゅ味

で、自分の部屋で本を読んだり、新聞を読んで一日をすごしています。私の読んだ本を、ばあちゃんに貸してあげると、私が何日もかかって読んだのに、ばあちゃんはたちまち読んでしまいます。そして「どうもありがとう」ととてもいい本だったな」といって返してくれます。

ばあちゃんは、私や弟がごはんをはこんで行ったり、おいしい物をもつていたりすると「ありがとう」と言うのを忘れません。母にも「ばあちゃんのように、何事にも感謝の気持ちを忘れないようにしなさい」と言われます。

ばあちゃんの背中は、ねこのように丸くなっていて、足もあまりうちはあるけれど、目が見えなくなってきたから、ゲートボールを始めました。

ばあちゃんは、夕方、ひまがあるとか毎日練習しています。そのせいか、老人クラブのゲートボール大会で、良いせい績をおさめています。

ばあちゃんが、ゲートボールの練習をしているとき、「正樹もやってみろ」といわれて、少しやると何回かは入るけれど、ばあちゃんにはかきません。

ぼくが小さいときには、野球をして遊んでいました。そのとき、いつもばあちゃんは、ボールを投

じょうぶではありません。それなのに、私が勉強していると、ときどき、両手いっぱいにおかしを持ってさし入れに来てくれます。「うわあ、ありがとう」といって、ばあちゃんといっしょです。

私が、学校であったことや、友だちと遊んで楽しかったことと話をすると、ポケットの中からイヤホンを出して、ニコニコして聞いてくれます。そしてばあちゃんも、自分の小さかった時の話や、昔の学校の事を思い出して話してくれます。

私は、こんなばあちゃんが大好きです。一日も早く元気になって、ゲートボールが出来るばあちゃんになってほしいと思います。

また、おねえちゃんやぼくが、保育所にかよっているとき、いつもむかえに、ばあちゃんが来てくれました。

それに、お母さんが、けいしやで、お父さんといっしょに働いているので、夕方のおかずは、ばあちゃんを作ります。

そのほか、いろいろな仕事はまだまだありますが、何事にも、いっしょけんめいします。

ぼくは、ばあちゃんがいっぱい、いつもでも長生きしてほしいと思う。

樋口 典雄
(第1・農業)

新聞で、ときどき一人暮しの老人の、孤独な死の記事を目にする
ことがある。どうして、孤独な老
人がうまれるのであろう。それは
老人も若者も、お互いを理解する
という気持ちが少ないからではな
いだろうか。

高齢化社会といわれる現代において、老人と若者のつながりというものは、ますますたいせつだと思ふ。若者は老人を、人生経験の先輩として敬い、また老人は若者を認めることが必要であると思う。人間年をとるにしたがって、自分のカラに閉じこもりがちになる仕事に引退はあっても、人生に引退はないと思う。生きている限り、社会の一員である。

社会の一員である。

人間、いくつになっても生きがいをなくしてはならない。生きがいを持つということは、老化を防ぐことにもなると思う。何でもいから、熱中することにより、違った人生をみつけることが出来るかも知れない。

おめでとうございます

昭和58年 9 月15日現在

(85歳以上の方、敬称略)



老人は、生きた智慧袋といわれる。長年の人生経験を生かし、人生引退することなく、大いに社会のために活躍してもらいたい。

最後に、人生経験豊富な、諸先輩方に対し、改めて敬意を表します。

小坂渡辺チヨ	山根村上やう	内谷西鴨田惣太郎	部落名氏名	年齢
「	94歳	95歳		

大町南	山崎北	石母田東	山崎小館	徳江北	第三	大木戸	大木戸	太木戸	板橋	第十二	小坂	町東	宮北	石母田東	山崎館	並柳	大木戸	徳江北	第八	貝田	徳江北	石母田北	山崎北	光明寺	石母田原	貝田	川内	貝田
佐久間	古山	佐藤	吉田	八巻	吉田	松浦	村上	松浦	熊村	高梨	早田	斎藤	吉田	佐藤	吉田	藤	津	後藤	佐藤	野藤	斎藤	斎藤	高橋	松浦	大沼	鈴木	松田	
うめよ	クニ	勝太郎	龜太郎	栄作	ミサ	繁一郎	ゲン	喜一郎	マツ	トヨ	富	ツネ	キヨノ	ヨテ	イセ	レン	イシ	ミトセ	タケヨ	繁三	セン	ウシ	松吉	吉次	慶一	朝治	テン	
		88歳								89歳						90歳						92歳					93歳	

第 九 村	耕 谷 岩 上	第 二 佐 久 間 エ ツ ク	光 明 寺 佐 藤 フ シ ン	原 第 一 野 田 喜 一 郎	第 七 佐 藤 ト キ ハ	北 部 佐 藤 ト ヨ	本 町 本 田 ヨ ウ	本 町 紺 野 シ ホ	高 城 長 谷 川 キ ヌ	川 内 太 田 マ ス	駅 前 秦 勇	石 母 田 原 松 浦 ナ ツ	宮 内 谷 東 鴨 野 キ ヨ ノ	内 谷 東 鴨 野 キ ヨ ノ	光 明 寺 佐 野 久 吉	第 三 武 田 コ フ	駅 前 秦 ナ ヂ	内 谷 東 鴨 田 忠 右 工 門	内 谷 東 熊 坂 キ セ	川 大 町 北 鈴 木 キ セ	太 田 川 佐 藤 ト モ	第 八 佐 野 庄 八	貝 田 大 沼 ノ シ	前 田 安 藤 末 吉	山 崎 館 菊 池 清 七	中 部 吉 田 清 七	川 内 岩 城 竹 次	第 一 佐 久 間 佐 七
86歳										87歳																		

[illegible]

私は、山形県長井町（現長井市）に生まれ、育った。

「食べ物への恨みは恐ろしい」という例えのように、過去を振り返る時、どうしても、太平洋戦争時、小学生という育ち盛りに、食べたくとも食べる物が無いという食料難時代の、腹にこたえた時期の印象が強い。

「おしん」の「大根飯」に共鳴できるも、経験からの納得であるから。

× × × × ×

長井市は、今「あやめ公園」で有名であるが、あやめ公園は、戦前からぎやかに在った。しかし、戦中の食料難時代に、あやめは全部取られ、百坪程の広さに分割され、希望者に畑として貸出された。私のところでも借受け、ジャガ芋などを作ったものである。

早朝、自宅から三キロ余の道程を、父と「肥桶」をかついで精を出した事がなつかしい。何年経ったろうか。

× × × × ×

夏は、学校から帰ると、カバンを放り出し、水泳と魚とりが日課

であった。プールなど無かったから、もっぱら最上川で泳いだ。川幅は七十米は優にあつたと思う。

その真中は、急流？となつていて、小学生で横切るのは相当至難と思われたが、負けじと泳いだものである。おぼれたことも数度、よく生き延びたものと今にして思う。

「小鮎釣りし彼の川」の思い出もまた深い。夕暮れ、暗くなるまで泥んこになり、鮎を釣ったり、

ふるさとに思う

豊野啓三

町政モニターサロン



網で小鱼を追った。ワラを束ねて作ったベンケイに、焼魚の竹串が刺してあつた記憶から、蛋白源として、健康づくりに役立ったものであろうか。

× × × × ×

冬も、また活躍があつた。車など、町に数台という時代であつたから、冬の道路は、子どもたちの恰好のスケートリンクになった。スケート靴も、今のように立派

なもの無く、ゴム長靴にくくり付ける式のもので、ゴム靴もなかなか買えない時で、ワラ靴の子どももいた。そして、みんなで渡れば恐くない、とばかりに、カチカチに凍った道路を、我物顔で滑った。

積雪も、一・五米は普通であつたから、最上川べりの土堤や、近くの山で、スキーを楽しんだ。スキーは、長兄から代々受継がれた古いものであつたし、服は、ツギハギのある通学服であつた。濡れて帰れば、コタツに入り、着たまま乾かしたものである。

× × × × ×

このように、自然を友として育つた「ふるさと」も、人口の増加とともに、住宅も増え、高層建物も随所に建ち、商店街も見違えるほど綺麗になり、往時をしのばせるものも、年々少なくなつてきた。

× × × × ×

しかし、遊び親しんだ四囲の山々は、往時のまま緑色濃くし、川もまた、満々と水をたたえ、悠然と変わりなく流れている。

（山崎耕谷一の九）

全国学校秀作美術展で 東京美術文化協会賞

東京都美術館で開かれた第四十回全国学校秀作美術展で、「電車」を出品した佐藤稚子ちゃん（森江野幼稚園・五歳）が東京美術文化協会賞に輝きました。

この美術展は、全国の幼、小、中、高校生で協会の推せんを受けた者が対象で、稚子ちゃんのほかには樋口卓弥君（県北中三年）の「ハニワ」も同じく東京美術文化協

会賞に入選しました。他の入選者次のとおり（敬称略）

【秀作】

◇吉田久俊（藤田幼・五歳）◇遠藤祥史（藤田幼・五歳）◇鈴木賢二（森江野幼・五歳）◇鈴木正人（森江野幼・五歳）◇古溝真奈美（小坂小二年）◇吉田理華（藤田小二年）◇小林百合子（藤田小二年）◇遠藤崇（藤田小二年）◇村木百合（藤田小三年）◇佐久間正敏（藤田小四年）◇山崎敦（藤田小四年）◇藤田知展（藤田小五年）

電車

佐藤稚子

（森江野幼・五歳）

子どもらしい夢いっぱい作品です。

車内の人物は、それぞれ面白くちえており、ユーモラスです。

この作品も、無理のない表現であり、五歳児らしい辛直な態度で思いついて書いています。

クレヨンで書いた後に絵具を使って書いていますが、それがまた効果的に生きています。

す。

全国学校秀作美術展審査員 石原 晃義



全国大会で五位に入賞

「駅前の鈴木さん」

第十六回二輪車安全運転全国大会は、八月二十・二十一日の両日、三重県の鈴鹿サーキットで開かれ、本県代表で個人の高校生クラス級に出場した鈴木敦さん（山崎字北



賞状

町田三十六（十八歳）は、みごと五位に入賞しました。大会には、全国から約二百人が参加し、女性クラス（五十歳）高校生クラス（百二十五歳以下、二十歳未満）一般Aクラス（四百歳）一般Bクラス（七百五十歳）の四クラスに、バイクの安全運転のための法定走行、バイロンスラローム（連続進路変更走行）など、運転技能を競い合いました。また、全国大会出場を前に、八月十六日、役場に佐藤善右衛門町長を表敬訪問した鈴木さんに激励金が贈られました。

東北中学校剣道大会で優勝

「県北中一年の松浦さん」



第七回東北中学校剣道大会は、八月十二日、岩手県三戸市の福岡

中学校で開かれ、本県代表の松浦裕子さん（県北中一年、西大枝字築館三十九）は、一年生ながらみごと優勝しました。

大会には、東北の強豪二十四名が参加し、決勝戦では、秋田・山王中学の渡辺選手から面二本を取り、栄冠を手に入れました。

裕子さんは、毎朝五百回の素振り、午後は中学や道場で約一時間半の練習をかかさず続けています。「日ごろの練習の賜物だと思えます。今後、練習に励み、来年、さ来年も東北一の座を守りたい」と抱負を語ってくれました。

あの人 65

＝ゆかた美人＝

佐久間美由紀さん

（藤田字日波四7の1 19歳）



「アアアアアアアア 今年（こ）としや」豊年だよ、アアアアアアアア コリヤ、徳に徳が咲いてヨアア」にぎやかな歌と、涼やかなゆかたを着て、老いも若きも、つのだきな輪となって踊る盆踊り。今回は、八月十六日に行われた国見盆踊り大会で、栄ある「レディーズゆかた」に輝いた佐久間美由紀さんに登場願った。

美由紀さんは、とてもゆかたが似合う美人で、大会では、母親のナヨ子さんが「華レディーズゆかた」に選ばれ、また、昨年の大会では、姉の片桐真理子さんが「カワユイで賞」美由紀さんが「ステキで賞」に選ばれ、文字とわり美人、家である。

現在は、福島女子短期大学の服飾美術科に通う学生で、趣味は、絵画とジャズダンスという。絵画は、大学で授業を受けているので現在は卒業の自分の絵を仕上げるのに余念がない。

また、ジャズダンスは、健康と美容のため、週一回、福島で本格的に習っている。ほかには、ドライブも好きで、休みの日には、海などに出かけている。

身長は百五十八cmで、ポッチャリとして、目がぱちぱちのかわいい人である。にこやかに話すこと

似合う美人で、大会では、母親のナヨ子さんが「華レディーズゆかた」に選ばれ、また、昨年の大会では、姉の片桐真理子さんが「カワユイで賞」美由紀さんが「ステキで賞」に選ばれ、文字とわり美人、家である。

現在は、福島女子短期大学の服飾美術科に通う学生で、趣味は、絵画とジャズダンスという。絵画は、大学で授業を受けているので現在は卒業の自分の絵を仕上げるのに余念がない。

また、ジャズダンスは、健康と美容のため、週一回、福島で本格的に習っている。ほかには、ドライブも好きで、休みの日には、海などに出かけている。

身長は百五十八cmで、ポッチャリとして、目がぱちぱちのかわいい人である。にこやかに話すこと

また、ジャズダンスは、健康と美容のため、週一回、福島で本格的に習っている。ほかには、ドライブも好きで、休みの日には、海などに出かけている。



第三日曜を推進の日に

町民憲章推進委員会



今年度の町民憲章の努力事項として、五項目のうち、特に第一項と第四項を推進することに、町民憲章推進委員会で決定されました。推進事項は次のとおりです。町民のみなさんのご協力をお願いします。

◆第一項「あたたく、たすけあう町をつくりましょう」

(一)おあしす運動の展開
(おはよう、ありがとう、失礼しますのあいさつなど)

(二)愛の一声運動の展開
○幼児、小中学生への声かけ
○近隣者、ひとにあつたらあいさつをする

○青少年の善悪言動の連絡
※心と心のふれあいをたいせつにし、あたたい心のこもったことをかけ合ひましょう。
気くばり、思いやりの心で接

しましょう。

◆第四項 力をあわせて、すがすがしい町をつくりましょう

〔毎月第三日曜日を「町民憲章推進の日」、家庭の日、青少年を非行から守る日〕と定め、朝(六三)七三三町内いっせい活動日とする。
春、秋：町内いっせい活動日を設定する。

その他の月
部落会などの活動日として、各地区単位、全組織団体合同で協力し合って活動する。

※活動は、各地区各部落会に計画の継続的に行うようにしましょう。
誰にでもできることを継続実践し、すがすがしい町をつくりましょう。

(道路、側溝、グラウンドなどの清掃など)

(二)祝祭日の国旗掲揚を行います。

先月号で、国民健康保険の健康優良家庭の紹介をいたしましたので、お詫びして追加いたします。
○佐藤美智子(藤田)○八島善明(藤田)○大波アキ(森江野)○大波芳己(森江野)○四年連続)○村上祐市(大木)○荒川一男(大木)○三年連続)

悩みや苦情はまず相談!!

秋の行政相談週間

十月十六日(日)から二十二日(土)までの一週間は「秋の行政相談週間」です。

行政管理庁では、行政相談制度のよりいっそうの利用促進を図るため、この一週間は「秋の行政相談週間」として全国いっせいに各種行事を実施します。

行政相談は、みなさんが国や県、町などの行政機関、公社、公団などの仕事に關して、いだいて苦情や要望について、「無料」で「親身」に相談に応じ、その解決や実現のお手伝いをしています。

国見町では、十月十三日(木)午前十時から一時まで町公民館で行われます。相談委員は、佐久間岩吉さんが当ります。

秘密は守りますので、お気軽にご利用ください。 ☎二二〇二

特設無料人権相談

期日 十月五日(水)

午前十時～午後二時

場所 国見町公民館

相談員 法務局職員

国見町人権相談員

名地の国

④ 清水 大 菊池利雄

稲の栽培にとって、灌漑水の供給が不可欠なことは言うまでもない。灌漑水の多くは、河川の流れを堰上げて利用する、河川灌漑方式を主とするが、国見では、湧水、その一例をあげれば、光明寺村にある御瀧神社の境内からは、豊富な湧水が湧き出ており、これを水源とした山田川によって、この村の水田が開発され、天文七年(一五三八)の「伊達氏段銭古帳」から推定できる戦国期の水田面積は、「信達二郡村誌」にみられる明治初期の面積は、ともに約一〇町歩とほとんど変わりがなく、湧水利用によるこの村における水田開発の、歴史の古さを物語っており、さらに、余剰水を用いての開発が、下流地の西大枝村の一部や、東大枝村におよんでいたことから知られる。

この地方を含めて、東北地方の湧水は、普通、清水・大清水と



光明寺 御瀧神社の湧水

石母田の三吉神社の境内から湧きでる大清水、山崎の鈴(清水)の水などがこれにあたるが、最近では、大清水と読む人が多く、これは誤りである。徳江には、破題清水があるが、この場合は清水とは読まない。

森山には、湧水があり、元禄十三年(一七〇〇)の「森山村明細帳」によれば、湧水からの豊富な湧水は、昼二十日と夜三十晩は、森山村の水田に、昼十日は西大窪村(現大木村)の水田に灌漑される水利慣行があつて、森山村に優先的な利用が認められていたが、現在

は、農業水利権が放棄され、東北新幹線東三田駅の掘削によって、水源の涸渇した、貝田の簡易水道の水源として利用がなされている。

以上あげたように、国見における湧水地名としては、清水・清水・湧水の呼称が残されている。

参考文献 国見町史 地名考 国見町史 地名考

違反建築を なくしましょう



来る十月十一日から十七日まで
の週間、建設省、福島県および
五市特定行政庁（福島市、郡山市、
いわき市、会津若松市、須賀川市）
が、市町村ならびに関係団体の協
力を得て、違反建築防止週間を実
施することになりました。

この目的は、建築基準法の目的、
内容について理解を深めていただ
くとともに、良好な市街地の環境
の形成および建築物の安全性の確
保に努めようとするものです。

この期間中、建築活動の盛んな
地域を重点に、いっせいで公開パト
ロールを行います。

出稼労働者の 健康診断の実施について



秋冬期において、季節的にこの
作業に従事される方の就労の安全
を図るため、今年も就労前の健康
診断を左記により実施いたします。

一、実施時期

九月～十二月三十一日まで

二、実施場所

(一)福島保健所

毎週月・水曜日

午前九時～十一時

(二)保原保健所

○九月から十一月までは毎月
第二、第四水曜日の午後一時
～一時

○十二月以降は毎週水曜日の
午後一時～二時

三、費用

無料。ただし、「健康診断受
診者証」(安定所で交付しま
す)を持参すること。

終戦当時の 引き揚げ者の方々へ

「通貨・証券などを
お返ししています」



税関では、お預りしている次の
通貨・証券などをお返ししていま
す。

●終戦後、外地から引き揚げてこ
られた方が、上陸港の税関、海
運局に預けられた通貨、証券な
ど

◇ 外地の集結地において、総領事
館などに預けられた証券などの
うち、日本に送り返されたもの
◇

返還の申し出は、ご本人ばかり

でなく、ご家族の方でも結構です。
お心当りの方は、上陸港を所轄す
る税関または最寄りの税関にお問
い合ってください。

NHK学園 社会通信講座 五十八年度(秋)受講者の 募集について



NHK学園では、昭和五十八年
度秋の「社会通信講座」の受講者
を募集しています。

この通信講座の利点は、リポー
トの添削が中心で、だれでも自宅
にいながら自分の都合のよい時間
に、自分のペースで学べるという
ところにあります。

講座は書道、硬筆、母と子の硬
筆、簿記、俳句、短歌、文章、絵
画、囲碁、英語、数学、国語の十
二講座三十六コースで、自分の力
量に適したコースを選ぶことがで
きます。どの講座も、定められた
期間内に学習が修了できるシステ
ムになっており、受講者の学習の
進み方に応じて調整できるように
と工夫されています。

○受講資格 となたでも

○受付期間 八月一日～九月三日

※詳しい案内書ご希望の方は、
お近くのNHKまたは、左記
へ講座名と氏名、住所、電話

番号を書いてハガキでご請求
ください。

〒86 東京都国立市富士見台一三六

NHK学園CT係

☎(四五七)二二二五

(案内書は無料です)

善意の窓

町社会福祉協議会に

◆仲野周一郎さん(泉田中)から
五万円―故周次郎さんのご遺志

◆佐藤俊一郎さん(駅前)から
五万円―故吉郎さんのご遺志

◆福聚寺(光明寺)から
三万円―故加藤萬拙さんのご遺

志

大木戸小学校に

◆村上昌子さん(山根)から
五万円―故果さんのご遺志

東北中学校に

◆奥山モトさん(源宗山東)から
雑布五十枚

国見町老人クラブ連合会に

◆福聚寺(光明寺)から
三万円―故加藤萬拙さんのご遺

志

心配ごと相談日

場所：役場二階相談室(東側入口からお入り下さい)
時間：9時～12時
こまったことや、相談ごとがありましたら、
お気軽にご相談下さい。秘密は絶対に守ります。

(相談員)

9月24日(土) 曳地 善作、朝内 ひで
10月5日(水) 佐久間 巖、村上ハツコ
10月15日(土) 樋口 弘、佐久間いち



9月 長月(ながつき)

10月 神無月(かんなつき)

20日(火) 彼岸入り

1日(土) 法の日、共同募金

動物愛護週間

9日(日) 寒 露

航空記念日

10日(月) 体育の日

23日(金) 秋分の日

目の愛護デー

24日(土) 結核予防週間

14日(金) 鉄道記念日

26日(月) 彼岸明け

15日(土) たすけあいの日

公民館だより

国見町公民館

電話 2676
4156



少年ソフトボール大会



高校生親善球技大会

一球一投 に歓声 スポーツ

快汗
シェイプアップ

八月十八日午前十一時から
第四回少年ソフトボール大会
が、山崎運動広場、藤田小校
庭で行われ、小学四年以上の
男女混合編成の十四チーム、
約二百人が参加した



高校生親善球技大会

結果は小坂チームが優勝、
2位森江野、3位大町北、町
東チームでした。
また九月四日には、県北中
体育館、グラウンド両会場で第
五回高校生親善球技大会が開
かれ、男子はソフトボール、
女子はバレーボールで優勝を
めざした。

結果は男子優勝は小坂、2
位藤田B、3位森
江野チーム
女子優勝は森江野、
2位藤田B、3位
大枝チームでした。



町民学校エアロビクス教室

「民話」を聴いて

町民学校

冬の夜語りならぬ、夏の夜語り、
福島の民話を聞く会が、四夜にお
たり、日本でも有数の三百話語り
手として折り紙つきの遠藤登志子
さんを迎えて聞かれるというの
で、とても楽しみにしておりますし
た。

民話と一口に云っても、再話に
よって、あまりに文学的に整いす
ぎたり、視覚化の際、面白おかし
くドラマにされすぎたりして、本
来の素材が伝わらないことが、ま
まある最近、このような素朴な
語り口に接することができたこと
はとても貴重なことだと思えます。
どちらにせよ、民話には、たい
へんなエネルギーがあると云われ
ていますが、方言の語尾にかくさ
れた、たくまざる人情の機微、ユ
ーモア、エロチシズムなど、貧し
かった人々の暮らしを思いやると共
に、つきない面白さを強く感じた
ことでした。

内池 和子

さて、やや低声で語り初められ
た「むかしこ」は、げえるばたも
ち、こがねせんが、のみのくし
ざし、ねこのじょうり、三途の
川など二十話。どれも遠藤さんが
幼い頃たばこの葉伸しの手伝いを
しながら、あちこちのじいちゃん
ばあちゃんに聞いた話、そのまま
ということですが、その時の労働
のリズムそのままが、語り口の中
に残されているゆつたりとした語
り口で、どれも土に密着した方言
となまりで、方言でなければ表現
できない実感のこもった語りで、
改めて、方言の持つ力と美しさを、
成程「むかしこ」とはこういうも
のだったのかと、納得のいく味わ
い深いものでした。





アー あったアー



サア みんなよく聞いて



さあ 次はどこかな



表彰状をもらって ニッコリ

夏休み 最後の日 オリエン テーリング 少年仲間 づくり教室

八月二十一日、オリエンテーリング大会が、大木戸小学校をスタート、ゴール地点として行われました。

オリエンテーリングは、地図と磁石をたよりに、あらかじめ決められたポストを通して、徒歩でなるべく早くゴールする競技です。

当日は、教室生三十四名が参加し、指導者の「サークル

ぼけっ」と会員から、競技についての説明を受けた後、八時半に第一班が出発。以後、これに続きました。

ポストが六ヶ所、距離約四kmのコースで、子どもたちは、炎天下の中、自然と親しみながら、仲間たちと協力し、助け合いながらゴールをめざしました。

ゴールのあと、子どもたちは、自分たちでやりとげた満足感にひたりながら、木陰で疲れをいやしていました。

県大会で五位入賞

国見ゲートボール愛好会

国見GB愛好会はいわき市で、八月二十五・二十六両日にわたって開催された、第五回県ゲートボール大会に出場し百七十四チーム中五位に入賞しました。

特筆することは、第一回より第



入賞したゲートボール愛好会のみなさん

四回大会までベスト8は常に浜通り勢が占めておりましたが、当町チームは初出場ながらこの壁を突破した事です。

愛好会は誕生以来十ヶ月と若いチームですが、常日頃の熱心な練習の成果です。県関係者たちもその活躍に驚いています。

監督の齊藤正美さんは「これから先こそ調子のよい事は少ない事は覚悟しております。十月十八・十九日の両日にわたる全国大会にも出場しますが、緊張一番頑張つて見たいと思っています。皆様のご声援をお願いします」と抱負を述べています。

なお今日のチーム構成は、監督 齊藤正美、選手は樋口金治郎、横山辰雄、遠藤源五郎、菅野正右、八巻藤七、斎藤重雄、佐藤貞助の各氏でした。

あつかし俳句会

す。

西根堰芒動いて立つ秋か

形見なるしみもなつかし夏の帯

診療の窓辺に芙蓉女医若し

犬の尾のきりりと巻いて今朝の秋

夕端居明治を語る老夫婦

どしゃ降りのやみて狭庭に風涼し

壇上に老の一詩や扇置く

涼しさや窓より見ゆる葉のそよぎ

ハンカチの彩美しき娘は青春

風船を片手に金魚すくいかな

奥山甲二
藤田勝衛
佐久間山月
須田泰山
阿部しげを
渋谷良一
赤間はる子
菰沢秋子
鈴木幸子

戸籍の窓口

(8月受付分)

出生おめでとうございます

子	の	名	保護者	部	落
陽	平	(ようへい)	高橋 勇治	山崎	小館
望	(のぞみ)	高橋 孝	田	三	第
友	美	(ともみ)	伊藤 隆夫	第	十
奈	津	美	(なつみ)	小島 重一	第
美	由	紀	(みゆき)	伊東 美好	駅
め	ぐ	み	石川 義博	第	四
祐	太	(ゆうた)	佐藤 隆一	原	町
洋	介	(ようすけ)	八巻 秋夫	耕	谷
純	広	(じゅんや)	菊地 茂	第	十
靖	彦	(やすひろ)	笠松 金次	山	根
雅	彦	(まさひこ)	渡辺 善男	高	城

おくやみ申し上げます

氏	名	年齢	部	落
松	浦	キ ヨ	55	大 木 戸
村	上	果	41	山 根
武	田	ト イ	81	宮 町 南
小	出	鉄 蔵	77	小 坂
佐	藤	吉 郎	88	駅 前

人口と世帯

9月1日現在(前月比)8月中のうごき

人	男	5,893人 (-5)	転	入	10人
	女	6,231人 (-10)	転	出	31人
口	計	12,124人 (-15)	出	生	11人
世帯数		2,865戸 (-2)	死	亡	5人

○今月十五日は敬老の日。わが町でも、年々老人の人口は増加しているが、今後も医学などの進歩により、ますます増加の一途をたどることだろう。いま、若い人でも、いつかは老人になる。その時に、趣味や生きがい(たとえば、旅でもよし、釣りでもよし、いまはやりのゲートボールでもよし、要は、足を使い、頭を使うことである)があれば、老後に、希望が持てるのではないだろうか。

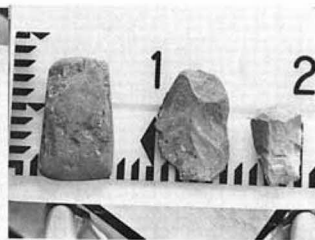
K



発見者の佐藤さん

郷土史研究家の菊池利雄さんと町教委の高橋社主事が現地を調査した。すると、今から約四千年前の縄文中期から晩期に使用された磨制石斧と判明した。

菊池利雄さんの話によると、「附近一帯をよく調べてみると、断言できないが、



見つかった石斧

○さわやかな九月。本格的な釣りシーズンである。私も、現在海釣りにこり、毎週、土曜、日曜と出かけている。もっぱら投げ釣り、イシモチやアイナメ、それにスズキなどをねらっている。夏場はイシモチが主役だが、これからは大型のスズキがこれに変わり、数も減る。釣りをする時は、釣り場を選び、また仕掛けを自分なりに工夫し、エサも選ぶ。そして、目的の魚がつれた時のうれしさは格別である。一度ついたらやめられない。まさに醍醐味を感じられる。

○忙しい生活に追われる私たちの毎日だが、のんびりと、釣り糸でも垂れて、潮風を吸いながら、一日釣りでもしたらいいかであろうか。

磨制石斧見つかる

残暑の厳しい八月二十七日、国見牧場管理人の佐藤一郎さんが、



大字小坂字善四郎森(通称行合道)地内の牧場を見回っていたところ、伸び始めた牧草の合間に、雨に洗われた石コロを見つけ、無造作に取り上げてみると、磨かれた石斧らしいので町教育委員会に通報した。

近くに砥石坂の地名もあり、砥石が出る、頁岩は砥石の原料でもある。北の方角には地震でも動かないという万歳山があり、山岳信仰の拠点があるかも知れない、よく調査をすると、工務路などの遺跡があるのではないかと。

また、「万歳山頂南西部には、ガンバコ岩(石)」といわれる巨岩で出来た根らしきものがあるといふ伝えられている。日本の新石器時代の縄文文化のころは、東部日本から、東北、北海道にかけて、ヨーロッパのストーン・サークルに対比される配石遺構が造られたが、その代表的なのが秋田県鹿角市大湯にある。それと同じような遺構が見つかる可能性がある」といっていた。

それにしても壮大な縄文のロマンである。

編集日記